



楽天、関西で主催試合

仙台・本拠球場が被災

仙台市のクリネックススタジアム（Kスタ）宮城を本拠とするプロ野球パ・リーグの楽天が、一時的に関西を拠点として主催試合を行う方向で調整が進んでいることが16日、分かった。東日本大震災の影響でスタジアムや周辺が大きな被害を受けたため、新たな拠点として「ほっともっとフィールド神戸」（神戸市）などが候補となっているという。

関係者によると、震災によってKスタ宮城が被害を受けた上、ライフラインが寸断され、大きな苦勞を強いられている被災者への配慮もあり、仙台市での主催試合を当面見送ることを決断した。球場や交通網など、試合開催の環境が

整う関西に臨時措置として拠点を移すことにした。

関西に本拠を置くセ・リーグの阪神や、パ・リーグのオリックスから協力の申し出もあるといい、阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）や京セラドーム大阪（大阪市）での試合も視野に入れている。

プロ野球はセ、パ両リーグとも25日に公式戦開幕を迎える予定だったが、パはしばらく延期、セは予定通り25日開幕とすることで内定。12球団の代表者らが集まった15日の実行委員会では意見がまとまらず、最終決定は先送りになっている。パの延期期間は調整中だが、両リーグとも予定通り144試合を消化する方向で日程を固め、近く発表するという。